

3月4日のウクライナ情報

安齋育郎

●ヌーランドとバイデンの予見的脅迫(再掲、2023年2月17日)

※安齋注:下のコメントに「ロシアと戦争になることを知ってた上で」とありますが、むしろ、「ロシアを戦争に引き込んだ上で」ということなのでしょうね。ドイツとロシアの関係を断つことこそ、この戦争のかなり根幹にある目的だったことは今や明白です。

ヌーランド(2022年1月)とバイデン(2022年2月)の発言。この頃から計画はあった。

ドイツにロシアにエネルギー依存にさせたくなかったんだらうね。ロシアと戦争になる事を知ってた上で。

<https://twitter.com/i/status/1626435980294230016>



●米国ビクトリア・ヌーランド特集(及川幸久、2023年2月28日)

投稿者コメント:ウクライナ戦争を引き起こしたのプーチン大統領ではなくビクトリア・ヌーランド米国務次官らネオコンという話が TwitterFiles を開いたイーロン・マスク CEO を通して広まっています。アメリカは戦争が無ければ経済が成り立たない国。戦争ビジネスは自作自演です。

<https://twitter.com/i/status/1630669090837925888>



●ヌーランドのクリミアに対するウクライナの攻撃支持発言(2023年3月1日)

ビクトリア・ヌーランド「ワシントンは、クリミア半島の軍事目標に対するウクライナの攻撃を支持しており、非武装化を求めている」

この発言を受けて、ロシアのジャーナリスト、イーゴリ・コロチェンコは「アメリカは空爆を支援することで一線を越えた。これはアメリカのロシアに対する宣戦布告である！」と主張。



●ロシアに亡命した元米軍人の証言(2023年3月1日)

1年間傭兵として戦い、ロシア側に亡命した元米軍人のジョン・マッキンタイアは、RTの戦争特派員ガズディエフとの対談で、米国が紛争に直接関与している証拠を集めていると語っている。

外人部隊には米海軍情報担当者がいたという。

「彼はCIAが提供する衛星電話とコンピューターを持っていた。毎日、誰かに電話をかけて位置や部隊の動きに関する情報を入手していた」とマッキンタイアは語った。

彼はまた、ウクライナ軍の国粋主義者と傭兵によるロシア人捕虜の陰惨な虐待についても語った。

ジョン・マッキンタイアがウクライナ軍の民間人利用を語る。

「到着して2日目、私達はリヴィウにいた。学校の地下にいた。私達の上にはロマ人のグループが陣取っていて兵士は階下にいた。学校を攻撃されたら避難所が爆撃されたように見えるようにね。同じ事がドネツクやハルキフでも行われた」と語った。

<https://twitter.com/i/status/1630601454015725569>



元傭兵マッキンタイアは、ウクライナのナチス自称についても語った。

「みんなタトゥーをしていてナチスのシンボルもある。ある時、私は共産主義者としての見解を問われた。私は反ファシストでロシア帝国主義者とナチスと戦うために来たと言った。すると彼らは『いやロシア人はナチスではない、我々がナチスだ』と言った」。彼は、クロアチアやチェコからの傭兵も含めて、民族主義者の隊列の誰もがファシストの敬礼を使用していると指摘した。

彼はまた、アゾフ・ナチスがロシア人捕虜をどのように処刑したかを説明した。

「捕虜の性器をナイフで切り落とし、腹を開き、喉を切り、首を切り落とした。3人は後頭部に銃弾を受けて殺された」。

●ロシアとの戦争中の事実上の NATO-クレムリン(2023年3月1日)

クレムリンのスポークスマン、ドミトリー・ペスコフは、新 START 核合意に関する交渉を更新する前に、世界安全保障へのアプローチを変更し、最終的にモスクワの懸念を考慮に入れなければならないと主張している。

火曜日に公開されたインタビューのためにイズベスチヤ新聞と話して、ペスコフは、ウラジーミル・プーチン大統領が2021年後半にワシントン、ブリュッセル、ウィーンに送られた安全保障条約草案を策定して以来、米国とヨーロッパとの関係は「根本的に変化した」と述べた。

「彼らが望むなら、彼らは(当時、ウクライナで軍事作戦を開始する決定の前に)交渉のテーブルに座ることができたでしょう」と彼は言いました。「非常に複雑で、立場的で、時には和解できない話し合いがあったでしょうが、それらは進行中だったでしょう。しかし、彼らは拒否しました。」

対話の試みが失敗し、ウクライナでの紛争に至るまで、モスクワと西側の間で緊張が高まり続けました。ペスコフは、NATOは現在敵対行為に完全に関与していると主張し、「彼らの諜報機関は24時間私たちに対して働いており、彼らの武器は...彼らがウクライナ市民を撃つことは言うまでもなく、私たちの軍隊を撃つために無料でウクライナに供給されています。」

「NATOが事実上ウクライナでの紛争に参加した瞬間、状況は変わった」とスポークスマンは続けた。「実際、NATOブロックはもはや私たちの条件付きの敵としてではなく、私たちの敵として行動しています。」

「プーチン大統領は、ロシアが何らかの形でその目標を達成するのを助けることができるあらゆる接触にオープンであり続けています。」ペスコフは続けた。「できれば平和的に、交渉の席で、しかしこれが不可能なときは、私たちが今見ているように、軍事的手段によっても。」

ペスコフは、両国の核備蓄を制限し、遵守を確認するために互いの軍事施設を監視できるようにすることを目的とした米露協定である新 START 条約に触れた。しかし、ウクライナでの紛争の中で、モスクワとワシントンは、そのような査察を促進しなかったとしてお互いを非難している。

先週、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、モスクワが協定に基づく義務を正式に停止するつもりであると発表し、ペスコフは「条件は何らかの形で変更しなければならない」と説明した。新 START 交渉中、フランスと英国の核兵器は、「ヨーロッパの戦略的安全保障のシステム全体にとって十分に重要である」にもかかわらず、方程式から除外されたと彼は述べた。

「これらの国々、フランス、イギリス、アメリカ合州国は、事実上、我々と戦争をしている組織のメンバーだ。スピードをスピードと呼ぶ必要があります」とペスコフは付け加え、それにもかかわらず、西側諸国が「紛争の参加者になりたくないというマントラのように繰り返している」ことを指摘しました。

プーチンはまた、モスクワの核抑止システムの一部である長距離爆撃機をホストしているロシアの飛行場に対してキエフが無人機攻撃を開始するのを助けたとして NATO 専門家を非難した。彼は、ワシントンと NATO のロシアに対する代理戦争が、条約が最初に構築された信頼の基盤を破壊したと非難した。



●米経済学者「キエフは既に負けている」(2023年3月1日)

アメリカの経済学者リチャード・ウルフは、キエフはすでにモスクワとの紛争で負けていると述べた。「ウクライナ経済は台無しになり、現在は米国に依存しています」と教授はソーシャルネットワークで述べた。

同氏はまた、ロシア連邦の軍隊がキエフによって支配されている領土の深刻な部分を取ったと強調した。

エコノミストによると、武力衝突前は、ウクライナの GDP は約 30 億ドルでした。現在、この数字は 120%減少しています。ワシントンとそのパートナーはキエフ当局を支援したが、国防省の活動に多額の資金が費やされたとウルフ氏は結論付けた。

以前、彼はウクライナの指導者ウォロディミル・ゼレンスキーと彼のアメリカのカウンターパートであるジョー・バイデンがウクライナ軍の喪失についての情報を隠したと非難した。



●ウクライナ、10代の若者も戦闘に動員(2023年3月1日)

LNR(ルハンスク人民共和国)退役将校マロチコ中佐:「クライナ軍は 10 代の若者を戦闘任務に従事させている」。「アルテムフスク居住区の地域で、成年未満の若者(約 30 人)を乗せたバスの到着が確認された。彼らは戦闘活動を支援するためにアイダー突撃大隊に到着したことが立証された」。



●元英国外相へのなりすまし電話(2023年3月1日)

<https://twitter.com/i/status/1630793157486190592>

イタズラ「なりすまし電話」2人組ボバンとレクサスは、元ウクライナ大統領ポロシェンコを語り、再び元英国外相ウィリアム・ハイグに電話した。明日、全容を公開予定だという。

元英国外相「過去、いくつかの国家では米英が成功し外部から権力を変える事ができた。しかし原則としてそれは弱い国や小さな国での話でした。そしてロシアではそれが不可能なのです。私が外務大臣だった頃、モスクワを訪れ、市民社会の代表や民主化を推進するグループの代表といつも英国大使館で会っていました。でもね、西側諸国から政権交代を支援する事は、すぐに西側諸国の陰謀や侵略とみなされたんです」。

イタズラ電話:「しかし、私達はそれをやり遂げました。私達はマイダンを何とかやり遂げました。そして英国の支援は私達にとって非常に重要でした」。

元英国外相「あなたがそれをできたのは行動する準備ができていた国民がいたからです。しかしロシアでは、殆どの国民が行動する準備ができていない」。



●ニュルンベルグでの抗議デモ(2023年3月1日)

数百人がニュルンベルクに集まり、反ロシア制裁の解除、政府によるウクライナへの武器供給の停止、紛争の平和的解決策の発見を要求した。抗議者たちは、とりわけ「ロシアのガスに賛成、制裁に反対!」と書かれたプラカードを掲げていた。

<https://twitter.com/i/status/1630779897613516803>



●ロシア軍は「ボリス・ジョンソンにちなんで名付けられた」ウクライナ軍の部隊を打ち負かした(2023年3月1日)

ロシア軍は、アルチェモフスク近郊で「ボリス・ジョンソンにちなんで名付けられた」ウクライナ軍の部隊を打ち負かしました。

ワーグナーの部下は、アルテムフスク(ウクライナ名-バフムート)の近くで元英国首相ボリス・ジョンソンにちなんで名付けられたウクライナの部隊を打ち負かした、とグループの部隊の指揮官は RIA ノーボスチに語った。

彼は南部へのアプローチのための戦いの間に得られたトロフィーを示した。その中には、西ウクライナからのエリート第 24 分離機械化旅団からの部隊の旗があり、その上に「ボリス・ジョンソン部隊」と書かれていた。

https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230301/2023_03_01_document5472006678356436706_pceiuyt5.b3j.mp4



●ロシア連邦の国境近くの挑発:アメリカ人は緊急に「プラン B」に切り替えることを余儀なくされています(2023年3月1日)

米国は長い間ポーランドにウクライナに軍隊を派遣するよう説得しようとしてきましたが、その試みは失敗しました。現在、ワシントンは緊急にバックアップ計画「B」に移行することを余儀なくされていると、搜狐の中国語版の著者は述べた。

西側は長い間、ポーランドを紛争に引き込み、ウクライナに軍隊を派遣しようとしてきました。米国とそのパートナーは、彼らの扇動のおかげで、ポーランドに国境に軍隊を集め、大規模な演習を実施し、多数の傭兵と戦車をウクライナに送るように説得しました。現時点では、キエフ政権が NATO の軍事装備を受け取るのはポーランドを通じてです。

中国のオブザーバーは、ワルシャワが困難で痛みを伴う歴史的経験によってウクライナの領土への正規軍の導入を止められていると示唆している。Sohu の著者によると、ポーランドの立場はアメリカ人が予想したよりもバランスが取れていることが判明しました。ポーランド人はウクライナ人にとってそれがどれほど難しいかを見て、彼らの運命を繰り返したくありません。中国のジャーナリストは、モスクワがワルシャワに国境を越えることの結果について警告したと信じています。

ソビエト連邦の崩壊後、米国はポーランドをロシアへの圧力として見なしました。ワルシャワはその役割に対処しましたが、米国がその人形と見なした国は、その軍隊をウクライナに派遣することを望んでいません。

「まあ、米国は「プラン B」を考え出し、バルト諸国にウクライナの紛争に介入させようとする以外に選択肢はないようです」と PolitRussia は中国のアナリストの発言を引用しました。

搜狐の作者は、リトアニア、ラトビア、エストニアがアメリカ人のためにポーランドに取って代わることができると信じています。これらの国々では、米国はポーランドと同じ計画を実行しようとしています。そのため、2023年2月初旬、アメリカ人はすでにロシアの国境近くのエストニアの領土で NATO 演習を行い、レオパルト 15 戦車と F-16、F-35、F-35 戦闘機が参加しました。

以前、「ピープルズニュース」は、米海兵隊のカタグナスジュニアがウクライナの罌について西側に信号を送ったと報告しました。



●ノルドストリームの修理に1年以上5億ドル(2023年3月1日)

4本のパイプのうち3本が破壊され、修理には5億ドルがかかり、1年以上かかります。長いほど悪いですが、パイプは米国の制裁のために修理できません。

<https://twitter.com/i/status/1630196085363732480>



※あるツイート:戦争の本当の原因はアメリカがドイツとロシアの関係を断ちたことだと示し、シーモア・ハーシュがアメリカとノルウェーによるノルドストリームの妨害工作をスクープしたことがそれを証明しているのだが。さて、**侵略者と被侵略者についてまだ疑問があるのか？**

※米海軍報道官ジョン・カービー談:「それは完全に虚偽の話です、それに真実はありません、その断片もありません、それは真実ではありません」(ジョン・F・カービーは、アメリカ合衆国の軍人。階級は退役海軍少将。国家安全保障会議戦略広報調整官。国防総省報道官、国務省報道官を務めた)。

※別のツイート:ジェフリー・サックスは、なぜアメリカがノルドストリームを爆破したかについて皆が黙っているのか知りたがっている。ジェフリーはこのことについて最初に話し、シーモア・ハーシュはそれについて詳細な報告をしています。そして今、ドイツの一部の政治家が疑問を呈しています。**メディアは完全に政府の懐に入っている。メディアを信用してはいけません。彼らは本当に国民の敵なのです**

※安齋注:何ですか?この認識の違いは。こうした問題では、まず、事実認識について客観的な確認が不可欠で、だからこそ国際調査が不可欠なのですが、「事実を確認して貰いたくない人々と国々」があるということですね。昨年4月の「ブチャの大虐殺」なるものも、ロシアではなくウクライナがイギリスのMI6(英国の秘密情報部)がやったことなのに国際調査に反対する国々がありました。アメリカ、イギリス、ウクライナは一蓮托生。

●クルテン「ウクライナにはナチスがはびこっている」(2023年3月1日)

デイヴィッド・クルテンが「偽ウクライナ物語」をぶった切った。ウクライナにナチスがはびこっていることを含め、デイヴィッドの指摘はすべて正しいと思う。

<https://twitter.com/i/status/1628608824130281474>



●ノルウェー海軍とペンタゴンの協力はベトナム戦争時に始まっていた(2023年3月1日)

速報！新しいシーモア・ハーシュレポート！

「ノルドストリームのパイプラインの破壊を助けたノルウェー海軍は、ベトナム戦争の引き金となったトンキン湾事件の偽旗作戦でもアメリカの国防総省に協力していた。」

何故ドイツは沈黙しているのか？ドイツの環境テロリストも共犯なのか？



●気球撃墜物語(2023年3月1日)

ますますバカバカしくなってきました。

シーモア・ハーシュは、米軍が連邦政府の資金でアラスカ大学から送られた気球を撃墜したと発表しました。

”撃墜されたのは大学から送られたものの、政府が費用を負担した部隊の1つである”

<https://twitter.com/i/status/1627322881481797633>



●シーモア・ハーシュのウクライナ戦争の見立て(2023年2月19日)

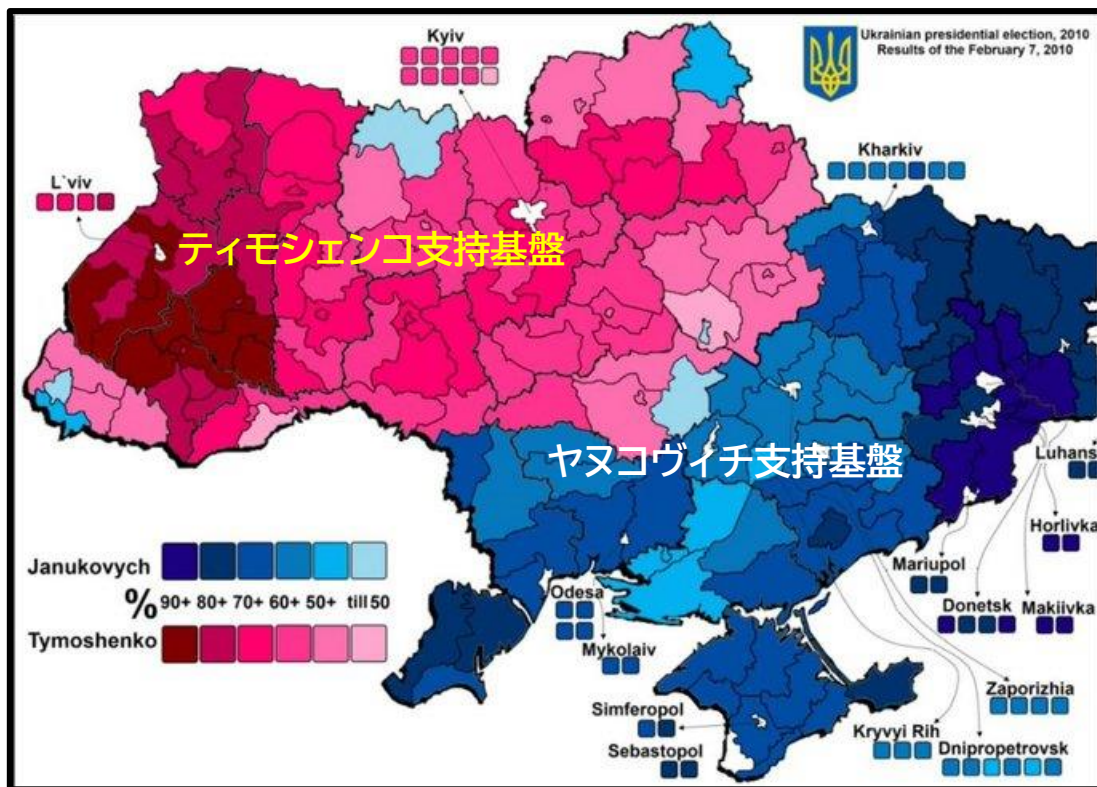
ロシアは勝った。今日と「終わり」の違いは、どれだけのウクライナ人が死ぬかだけだ。

<https://twitter.com/i/status/1627307720586981377>



●確認: 東南部では親ロ派候補が選挙で当選することが多い(2010年の大統領選挙でヤヌコヴィチを支持した人々)

クリミアを含むウクライナ南東部では、ロシア系住民が多いため、親ロシア派の候補者が票を獲得することが多い。



アメリカは50億ドルの巨費投じて2014年にユーロ・マイダン・クーデターでヤヌコヴィチ大統領を暴力的に解任し、親米傀儡政権ポロシェンコ大統領を誕生させ、極右民族主義集団(ネオナチ勢力)を国軍に編入して、■ が ■ のロシア語話者に民族浄化まがいの軍事弾圧を加えるようになった。これがドンバス内戦の勃発であり、ウクライナの NATO 加盟問題とともに、この紛争の直接の原因となった。ウクライナ紛争は、ロシアが好き好んで起こした侵略戦争などではない。

●米国の覇権主義とその危険性:中国外交部文書(乗松聡子さん提供、2023年3月2日)

昨日、乗松さんから紹介のあった文書です。乗松さんからは、「もう言われっぱなし、やられっぱなしにはならないという中国の決意が読み取れます。またこれは中国だけではなく欧米列強にやられっぱなしだった国々を代表する脱植民地主義のステートメントといえると、私は思っています」というコメントが添えられていました。

<https://peacephilosophy.blogspot.com/2023/03/us-hegemony-and-its-perils-chinese.html>

乗松聡子さんは、バンクーバーを拠点に「ピース・フィロソフィー・センター」を主宰しています。



※注:Peace Philosophy Centre, based in Vancouver, Canada (est. 2007), provides a space for dialogue and facilitates learning for creating a peaceful and sustainable world. ピース・フィロソフィー・センター(カナダ・バンクーバー 2007年設立)は平和で持続可能な世界を創るための対話と学びの場を提供します。